

**【表紙】**

**【提出書類】** 四半期報告書

**【根拠条文】** 金融商品取引法第24条の4の7第1項

**【提出先】** 関東財務局長

**【提出日】** 平成25年7月12日

**【四半期会計期間】** 第20期第1四半期(自平成25年3月1日至平成25年5月31日)

**【会社名】** 株式会社サマンサタバサジャパンリミテッド

**【英訳名】** Samantha Thavasa Japan Limited

**【代表者の役職氏名】** 代表取締役社長 寺田和正

**【本店の所在の場所】** 東京都港区北青山1丁目2番3号

**【電話番号】** 03-5412-8193

**【事務連絡者氏名】** 常務取締役 菅原隆司

**【最寄りの連絡場所】** 東京都港区北青山1丁目2番3号

**【電話番号】** 03-5412-8193

**【事務連絡者氏名】** 常務取締役 菅原隆司

**【縦覧に供する場所】** 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次 会計期間	第19期 第1四半期 連結累計期間		第20期 第1四半期 連結累計期間		第19期	
	自 至	平成24年3月1日 平成24年5月31日	自 至	平成25年3月1日 平成25年5月31日	自 至	平成24年3月1日 平成25年2月28日
売上高 (千円)		8,054,464		7,135,863		27,480,961
経常利益 (千円)		224,096		650,389		940,017
四半期純利益又は当期純損失 ( ) (千円)		36,126		466,161		397,074
四半期包括利益又は包括利益 (千円)		83,555		472,113		514,082
純資産額 (千円)		8,682,277		8,440,051		8,112,447
総資産額 (千円)		17,113,362		15,879,070		14,606,242
1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり当期純損失金額 ( ) (円)		102.35		1,320.72		1,124.98
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)						
自己資本比率 (%)		49.9		52.4		54.7

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

4. 当社は平成25年6月1日付で株式分割を行いました。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益金額及び1株当たり当期純損失金額を算定しております。

#### 2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社の異動は以下のとおりであります。

当第1四半期連結会計期間において、当社の持分法適用会社であったスタイライフ株式会社の全株式を売却したことにより、同社を持分法適用の範囲から除外しております。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

#### (1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新政権の積極的な経済・金融政策に対する期待感から円安・株高が進行し、景況感には改善の動きが見られたものの、実態経済の回復までには至っておらず、雇用・所得環境は厳しい状況が続くなど、依然として先行き不透明な状況が続いております。

当社グループの主要な関連業界である百貨店を含む小売業界におきましては、景気回復の期待感を背景に個人消費の持ち直しの動きがみられるなど、全般的に堅調に推移いたしました。

このような状況のもと、当社グループは、「良い人、良い場所、良い商品、良い宣伝」の実施を事業戦略にかかげ、効果的な店舗展開とプロモーション活動及び商品戦略などを展開してまいりました。

#### ・店舗展開について

バッグ事業においては、平成25年4月26日に大阪駅北側に開業した話題性の高い大型複合施設であるグランフロント大阪に「サマンサタバサデラックスプラス グランフロント大阪店」を出店するなど合計8店舗を展開いたしました。

ゴルフ事業においては、日本最大級のゴルフ売場として有名な名古屋松坂屋に「U25 & No.7 サマンサタバサ 名古屋松坂屋店」を出店し、新宿の小田急百貨店にも「U25 & No.7 サマンサタバサ 新宿小田急ハルク店」を出店しました。さらに宮崎県の国際リゾート施設であるフェニックスシ・シーガイア・リゾート内にも「サマンサタバサ トム・ワトソンゴルフコース店」を出店し、サマンサタバサのバッグとゴルフアパレルの複合店舗という新業態を展開するなど合計3店舗を出店いたしました。

さらに、アパレル事業においても「リッチミーニューヨーク 横浜タカシマヤ店」を出店いたしました。また、アウトレット事業においては、成田空港からもアクセスが便利な大型アウトレット施設である酒々井プレミアム・アウトレットに、「サマンサタバサ ネクストページ酒々井店」を出店いたしました。その結果、サマンサタバサグループ合計で13店舗を出店することができました。

また、旗艦店である「サマンサタバサDELUXE 表参道GATES店」のリニューアルも行い、ホログラムによる立体的なビジュアルを使った最新のディスプレイを店内に設置するなど、CMと連動した店舗展開を推進いたしました。

・プロモーション活動について

バッグ事業においては、「Samantha Thavasa × カワイイ × Art」の融合をテーマとして、若手クリエイターが描き出す12か月の季節や行事に合わせた12種類のアートビジュアルに、世界で最も活躍しているファッションモデルの1人である「ミランダ・カー」が出演する「Samantha Thavasa 2013 CM」の放映を行ってきました。

また、「ファッションと音楽の融合」をテーマに、板野友美さんの4thシングル「1%」と連動したスペシャルコラボレーションCMとして、板野友美さんと、女優やボーカリストとして世界的にも有名な「テイラー・モムセン」が、ファッションの聖地であるニューヨークのソーホーで撮影した「Samantha Vega × 板野友美 loves テイラー・モムセン in NEW YORK」のCM放映も行いました。

ジュエリー事業においては、「すべての女性に華やかな輝きと幸せを」をテーマとして、サマンサミュージズの蛸原友里さん、山本美月さん、土屋巴端季さん、板野友美さんが出演するサマンサタバサのジュエリーブランド「Samantha Tiara」「SAMANTHA SILVA by Samantha Tiara」のCM放映を行いました。

さらに、アパレル事業においては、当社グループのアパレルブランド「WILLSELECTION」の初となるCM放映も行いました。大人気アイドルグループAKB48の島崎遥香さん、菊地あやかさんが出演し、「女性であることを楽しむ、ファッションを楽しむ」をコンセプトに、商品やブランドの魅力を発信いたしました。

また、ゴルフ事業においては、平成25年3月に開催された「アクサレディス ゴルフトーナメント in MIYAZAKI」において優勝した堀奈津佳プロをはじめ、若手女子プロゴルファーの香妻琴乃プロ、山村彩恵プロの3選手プロと所属契約、そして原江里菜プロ、青木瀬令奈プロ、嶋田江莉プロとウェア契約を締結しました。全契約プロが、サマンサタバサのゴルフブランド「UNDER25 Samantha Thavasa」、または「No.7 Samantha Thavasa」のウェアを着てトーナメント出場を含むすべてのゴルフ活動を行っており、日本中の全ての女性達に、ゴルフをより身近でよりファッションブルに、ゴルフの魅力と楽しさを伝えております。

・商品戦略について

各ブランド事業において2013年春夏コレクションの新作を販売し、多様化するファッションニーズに応える商品を積極的に展開してきました。バッグ事業においては、注目商品である「サマンサアゼル」「サマンサ ヴェール」を、ジュエリー事業においては、「フラワーレターズ」「フラワーインフィニティ」を中心に、CM・雑誌・店頭・WEBなどと連動したプロモーション戦略が奏功し、売上の拡大につなげることができました。特に、平成25年3月に当社のジュエリーブランドである「Samantha Tiara」については、消費者ニーズに対応した高い商品力が評価され、ファッション業界に貢献した企業・団体・個人に贈られる「第31回（2012年度）百貨店バイヤーズ賞」（織研新聞社主催）を受賞いたしました。

さらに、商品の魅力をより高めるコラボレーションも継続して行い、当第1四半期連結累計期間においては、雑誌とのコラボレーションによるバッグや、人気モデル・スタイリストがデザインしたシューズを発売いたしました。さらに、総合オンラインショッピングサイトAmazon.co.jpのKindleストアにおいて、電子書籍リーダーKindleの専用カバーとして、サマンサタバサ人気シリーズである「サマンサマリッサ」、「サマンサ フローラ」シリーズを販売いたしました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は71億35百万円（前年同期比11.4%減）、売上総利益は48億58百万円（前年同期比0.1%増）、営業利益は5億16百万円（前年同期比110.7%増）、経常利益は6億50百

万円(前年同期比190.2%増)、四半期純利益は4億66百万円(前年同期比1,190.4%増)となりました。

## (2) 財政状態の分析

### (資産)

総資産は158億79百万円であり、前連結会計年度末と比較して12億72百万円増加しております。主な増加要因は、現金及び預金が8億27百万円、商品及び製品が6億90百万円増加したことなどによるものであります。

### (負債)

総負債は74億39百万円であり、前連結会計年度末と比較して9億45百万円増加しております。主な増加要因は、支払手形及び買掛金が3億17百万円、短期借入金が9億60百万円増加したことなどによるものであります。

### (純資産)

純資産は84億40百万円であり、前連結会計年度末と比較して3億27百万円増加しております。主な増加要因は、利益剰余金の増加によるものであります。

## (3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

該当事項はありません。

## (4) 研究開発活動

該当事項はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	672,000
計	672,000

(注) 平成25年4月15日及び5月22日の取締役会決議により、平成25年6月1日付で株式分割に伴う定款の変更が行われ、発行可能株式総数は672,000株増加し、1,344,000株となっております。

###### 【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成25年5月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成25年7月12日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	176,480	352,960	東京証券取引所 (マザーズ)	単元株制度を採用しておりません。
計	176,480	352,960		

(注) 平成25年4月15日及び5月22日開催の取締役会決議により、平成25年6月1日付で1株を2株に株式分割いたしました。これにより発行済株式数は176,480株増加し、発行済株式総数は352,960株となっております。

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

## (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成25年3月1日～ 平成25年5月31日		176,480		2,132,600		2,252,600

(注) 平成25年4月15日及び5月22日開催の取締役会決議により、平成25年6月1日付で1株を2株に株式分割いたしました。これにより発行済株式数は176,480株増加し、発行済株式総数は352,960株となっております。

## (6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

## (7) 【議決権の状況】

## 【発行済株式】

平成25年5月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)			
完全議決権株式(その他)	普通株式 176,480	176,480	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
単元未満株式			
発行済株式総数	176,480		
総株主の議決権		176,480	

(注) 平成25年4月15日及び5月22日開催の取締役会決議により、平成25年6月1日付で1株を2株に株式分割いたしました。これにより発行済株式数は176,480株増加し、発行済株式総数は352,960株となっております。

## 【自己株式等】

該当事項はありません。

## 2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(平成25年3月1日から平成25年5月31日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成25年3月1日から平成25年5月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。



## 1【四半期連結財務諸表】

## (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年2月28日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年5月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	3,198,619	4,026,110
受取手形及び売掛金	1,852,066	2,169,984
商品及び製品	4,334,540	5,024,581
仕掛品	-	10,854
原材料及び貯蔵品	172,425	186,979
その他	726,419	628,120
貸倒引当金	628	1,509
流動資産合計	10,283,443	12,045,121
固定資産		
有形固定資産	1,078,601	1,155,502
無形固定資産		
のれん	34,229	33,618
その他	238,736	239,086
無形固定資産合計	272,966	272,705
投資その他の資産		
差入保証金	2,043,914	1,831,043
その他	927,317	574,698
投資その他の資産合計	2,971,231	2,405,741
固定資産合計	4,322,799	3,833,949
資産合計	14,606,242	15,879,070
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,365,671	1,682,877
短期借入金	600,000	1,560,000
1年内返済予定の長期借入金	1,259,000	987,200
未払法人税等	315,467	132,891
賞与引当金	144,000	289,229
その他	999,892	1,085,943
流動負債合計	4,684,030	5,738,141
固定負債		
長期借入金	1,709,500	1,598,510
その他	100,264	102,368
固定負債合計	1,809,764	1,700,878
負債合計	6,493,795	7,439,019
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	2,132,600	2,132,600
資本剰余金	2,252,600	2,252,600
利益剰余金	3,642,182	3,967,160
株主資本合計	8,027,382	8,352,360
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	7,338	14,791
為替換算調整勘定	44,766	49,283
その他の包括利益累計額合計	37,427	34,491
少数株主持分	122,492	122,182
純資産合計	8,112,447	8,440,051
負債純資産合計	14,606,242	15,879,070

## (2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年3月1日 至平成24年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年5月31日)
売上高	8,054,464	7,135,863
売上原価	3,200,452	2,277,331
売上総利益	4,854,012	4,858,532
販売費及び一般管理費	4,609,035	4,342,407
営業利益	244,976	516,124
営業外収益		
受取利息	2,833	121
補助金収入	-	2,302
為替差益	-	87,934
償却債権取立益	-	51,900
その他	4,470	1,503
営業外収益合計	7,303	143,761
営業外費用		
支払利息	12,602	9,226
為替差損	12,809	-
その他	2,771	270
営業外費用合計	28,183	9,496
経常利益	224,096	650,389
特別利益		
関係会社株式売却益	-	105,570
負ののれん発生益	-	41,232
特別利益合計	-	146,802
特別損失		
固定資産除却損	1,355	3,938
関係会社整理損	111,425	-
その他	9,236	-
特別損失合計	122,017	3,938
税金等調整前四半期純利益	102,079	793,252
法人税、住民税及び事業税	30,940	42,071
法人税等調整額	100,986	296,204
法人税等合計	131,927	338,276
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失( )	29,848	454,976
少数株主損失( )	65,974	11,185
四半期純利益	36,126	466,161

【四半期連結包括利益計算書】  
【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年3月1日 至平成24年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年5月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失( )	29,848	454,976
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2,168	7,452
為替換算調整勘定	51,539	9,684
その他の包括利益合計	53,707	17,137
四半期包括利益	83,555	472,113
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	6,499	472,423
少数株主に係る四半期包括利益	77,056	309

## 【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

当第1四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日至平成25年5月31日)	
(1) 連結の範囲の重要な変更	当第1四半期連結会計期間において、ノーマディック株式会社の発行済株式の全株式を取得したことにより、同社を連結の範囲に含めております。
(2) 持分法適用の範囲の重要な変更	当第1四半期連結会計期間において、当社の持分法適用会社であったスタイライフ株式会社の全株式を売却したことにより、同社を持分法適用の範囲から除外しております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。  
 なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年3月1日 至平成24年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年5月31日)
減価償却費	185,815千円	122,265千円
のれんの償却額	7,700千円	611千円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自平成24年3月1日至平成24年5月31日)

## 1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年5月30日 定時株主総会	普通株式	141,184	800	平成24年2月29日	平成24年5月31日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの  
 該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自平成25年3月1日至平成25年5月31日)

## 1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年5月30日 定時株主総会	普通株式	141,184	800	平成25年2月28日	平成25年5月31日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの  
 該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成24年3月1日至平成24年5月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結損益計 算書計上額 (注)2
	ファッション ブランドビジネス	ファッションeコ マースビジネス	計		
売上高					
外部顧客への売上高	6,018,625	2,035,839	8,054,464		8,054,464
セグメント間の内部売 上高又は振替高	56,902		56,902	56,902	
計	6,075,527	2,035,839	8,111,367	56,902	8,054,464
セグメント利益又は損 失( )	339,355	93,127	246,228	1,251	244,976

(注)1 セグメント利益又は損失の調整額 1,251千円は、主にセグメント間取引消去であります。

2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

当第1四半期連結会計期間において、連結の範囲の変更により、前連結会計年度の末日に比べ、当第1四半期連結会計期間の報告セグメントの資産の金額は、ファッションeコマースビジネスで4,764,068千円減少しています。

当第1四半期連結累計期間(自平成25年3月1日至平成25年5月31日)

当社グループは、「ファッションブランドビジネス」の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

## (1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年3月1日 至平成24年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年5月31日)
1株当たり四半期純利益金額	102円35銭	1,320円72銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	36,126	466,161
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	36,126	466,161
普通株式の期中平均株式数(株)	352,960	352,960

(注) 1 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 当社は、平成25年6月1日付で普通株式1株につき普通株式2株の割合で株式分割を行っており、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり四半期純利益金額を算定しております。

(重要な後発事象)

取得による企業結合

当社は、平成25年6月4日開催の取締役会において、株式会社ラ・エストの株式取得及び子会社化について決議を行い、同日付で株式譲渡契約を締結し、平成25年6月10日付で全株式を取得しております。

1. 株式取得の目的

当社が株式会社ラ・エストを子会社化することで、当社の100%子会社である株式会社バーンデストジャパンリミテッドが展開しているアパレル部門の事業拡大につながり、ひいては、当社グループ企業価値の向上につながると判断したためであります。

2. 株式取得の相手会社の概要

- (1) 名称 株式会社ラ・エスト
- (2) 所在地 東京都渋谷区南平台17-17
- (3) 資本金の額 20,000千円(平成25年5月末現在)
- (4) 事業の内容 アパレル事業

3. 株式取得の時期

平成25年6月10日

4. 取得する株式の数、取得価額及び取得後の持分比率

- (1) 取得する株式の数 40,000株
  - (2) 取得価額 1,600,000千円(注)
  - (3) 取得後の持分比率 100.0%
- (注) アドバイザリー費用等の取得に直接要した費用については、含めておりません。

5. 取得資金の調達方法

自己資金

## 2 【その他】

該当事項はありません。



## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年7月12日

株式会社サマンサタバサジャパンリミテッド  
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 大橋 一生 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 野水 善之 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社サマンサタバサジャパンリミテッドの平成25年3月1日から平成26年2月28日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間(平成25年3月1日から平成25年5月31日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成25年3月1日から平成25年5月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社サマンサタバサジャパンリミテッド及び連結子会社の平成25年5月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 強調事項

重要な後発事象に記載されているとおり、会社は平成25年6月4日開催の取締役会において、株式会社ラ・エストの株式取得及び子会社化について決議を行い、同日付で株式譲渡契約を締結し、平成25年6月10日付で全株式を取得している。

当該事項は、当監査法人の結論に影響を及ぼすものではない。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。  
以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。